



ご挨拶

本日は“*A-Winds 52*”2010年秋の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月、アンサンブルという少人数の音楽スタイルを、吹奏楽の大人数の編成において、そのアンサンブルの延長上に位置付け、平城遷都1300年の歴史を誇る古都、奈良の都に発足しました。同年の秋に初の舞台“デビュー演奏会”を開催し、以後四季折々に開催する我々*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラの定期演奏会も、お陰さまを持ちまして丁度創立10周年を数え、52名の団員と共に第32回目の演奏会を迎えることができました。これも我々*A-Winds*の活動、そして音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と団を代表しまして心より厚く御礼申し上げます。

演奏面は勿論、運営面において、団員一人ひとりが『主人公』ということと、吹奏楽のオリジナル作品を中心に取り上げることを活動方針に掲げ、アマチュアながらも、音楽表現の研究にと、作曲家の方々を実際に合奏練習にお招きして、作曲家自身による作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な啓蒙に取り組みながら活動を続けて参りました。

1300年前、かの偉大な先人たちは、この場所に生まれ、育ち、何をして何を感じ、何を後世に残そうとしたのかと、とても感慨深い思いに耽る今日、わずか10年余りのちっぽけな、我々*A-Winds*ができること口にするには少し大げさではありますが、舞台と客席が一体となった今日この音楽が、いつまでも皆様の心の中で鳴り響き続けることで、遙か遠く先の歴史の一頁になればと願いを込め、今日の演奏とともに、一句詠ませさせていただきます。

恋詩くて 浪漫ちっく音 平城京

今後とも、温かい御指導御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷昌克

*

本日は“*A-Winds 52*”2010年秋の演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。今回の演奏会はお客様に楽しんで頂くことは勿論のこと、私たち奏者も演奏することを楽しみ、音楽の素晴らしさを会場一体となって実感したいという思いで企画いたしました。

金管楽器のファンファーレで始まる『交響的序曲』で華々しく幕を開け、マンハッタンやニューヨークの情景が思い浮かぶような曲、そしてたくさんの打楽器をソリストが華麗に操って演奏する『打楽器コンチェルト』など、「聴いて・思い浮かべて・観て楽しい」プログラムとなっております。

お耳馴染みのない曲でも、どれも聴いていて自然とわくわくするような素敵な曲ですので、私たちの音楽と共に今日という日が皆さまにとって素敵な週末となるよう、奏者一同、心を込めて演奏いたします。

どうぞ最後までごゆっくりとお楽しみ下さい♪

最後に、本公演開催にあたり関係各方面よりご支援賜りました事を、演奏会実行委員を代表して厚く御礼申し上げます。

“*A-Winds 52*”2010年秋の演奏会 実行委員長 森本幸恵



ご案内

“*A-Winds 55*”2011年春の演奏会

2011年3月21日(祝・月) 14:00開演 いかるがホール大ホール

春の訪れが待ち遠しくなる2011年3月“*A-Winds 55*”2011年春の演奏会では「Romantic Concert♪」と題し、春らしい華やかなプログラムをご用意しております。

そして、客演指揮者に新進気鋭の若き天才指揮者、高谷光信氏をお迎えします。

高谷氏のタクトから音楽の華が咲き乱れる古都いかるがホールで今までとは一味違う新たな*A-Winds*サウンドをお楽しみ下さい!!

“*A-Winds 55*”2011年春の演奏会 実行委員長 川本理恵



A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ

Piccolo 佐藤 由加里

Flute 佐藤 司
魚谷 陽子
古川 恵理
浅野 美音♪

Oboe 深沢 亮子♪
篠藤 文子☆

E♭ Clarinet 長尾 恭子○

B♭ Clarinet 竹村 明恵
森本 幸恵
後藤 咲妃
上野 彩香
八木 望
池田 知未
芳倉 宏文
野島 佳織○
日野上 昌里佳
近藤 晴美

Alto Clarinet 大西 晴己○

Bass Clarinet 辻田 綾子

Bassoon 満江 孝文
萱原 美華子

Alto Saxophone 島田 博一♪
三宅 利幸☆

Tenor Saxophone 初岡 和樹

Baritone Saxophone 宮本 祐輔

Horn 久野 耕三♪
次田 哲平
小林 計昭
大田 雅美
山中 美咲

Trumpet 魚谷 昌克
表 恭江
篠木 章江
竹腰 綾香
小倉 明花
市原 満
吉崎 直之☆

Trombone 萱原 淳嘉
小泉 文浩
鈴木 恵子
上野 遼太

Euphonium 大西 善郎
藤村 晃世

Tuba 楠 陽介
岸本 和

St. Bass 椎村 亮太

Percussion 平井 晶
谷口 麻子
久保 寛美
川本 理恵
松嶋 春香◇
高林 芙樹
惣内 あゆみ☆

Piano 八木 真木

Stage Manager 河津 雅之

団員=52名

◇=休団

☆=エキストラ

♪=*A-Winds 52*実行委員

○=ロビーコンサート係



A-Winds メンバー募集

●募集パート

・オーボエ (イングリッシュホルン) ・バリトンサククス
・トロンボーン ・チューバ ・コントラバス ……各1名

- A-Winds*の活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 18歳以上の方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



2010年11月20日(土) 13:30開場/14:00開演
やまと郡山城ホール 大ホール

主催●*A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ
後援●奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



プログラム

◇第1部

団員指揮者：魚谷昌克

シンフォニック・オーヴァチュア

SYMPHONIC OVERTURE Op.80 for Symphonic Band

作曲：ジェイムズ・バーンズ／James Barnes(1949-)

出版：Southern Music

マンハッタン交響曲

Manhattan Symphony

- マンハッタン到着／Arrival in Manhattan
- セントラル・パーク／Central Park
- ハーレム／Harlem
- ブロードウェイ／Broadway
- ロックフェラー・ビルディング／Rockefeller Building

作曲：セルジュ・ランセン／Serge Lancen(1922-2005)

出版：Molenaar

◇第2部

団員指揮者：魚谷昌克

打楽器とバンドのための協奏曲

CONCERTO for Percussion and Bad

作曲：ロバート・ジェイガー／Robert Jager(1939-)

出版：Meredith Music

客演指揮者：吉崎直之

ア・ウィークエンド・イン・ニューヨーク

A Weekend in New York

作曲：フィリップ・スパーク／Philip Sparke(1951-)

出版：Anglo Music

ニュー・シネマ・パラダイス

Nuovo Cinema Paradiso

作曲：エンニオ・モリコーネ／Ennio Morricone(1928-)

編曲：大島ミチル

出版：EMI General Music

吹奏楽のためのシンフォニックソング

SYMPHONIC SONG FOR BAND

- セレナーデ／Serenade
- スピリチュアル／Spritual
- セレブレイション／Celebraition

作曲：ロバート・ラッセル・ベネット／Robert Russell Bennett(1894-1981)

出版：Chappell



プログラムノート

■**シンフォニック・オーヴァチュア／ジェイムズ・バーンズ(1949―)**

この作品は、ワシントン空軍バンドの創立50周年を記念して作曲された、一言で表すと大変ゴージャスな序曲です。

作曲者のジェイムズ・バーンズは、スケールバンド向けの吹奏楽作品から本格的なクラシック作品まで幅広い作風を持っていますが、この『交響的序曲』は、冒頭の輝かしい金管ファンファーレ、シンコーションを利かした軽快なメロディ、色彩感あふれる美しい中間部、重厚な終曲など、彼のこれまでの数々の作品の魅力凝縮させた傑作の1つといえます。

■**マンハッタン交響曲／セルジュ・ランセン(1922―2005)**

この作品は、セルジュ・ランセンがニューヨーク旅行で得たインスピレーションを5楽章編成の交響曲にまとめ上げたもので、ジョージ・ガーシュウインの『パリのアメリカ人』のちょうど逆パターンとなっています。吹奏楽編成へのオーケストレーションは、ランセンのパリ音楽院時代からの友人であり、当時パリ警視庁吹奏楽団の指揮者に就任したばかりのデジレ・ドンデイスによって行われました。

スコアには、楽章ごとにランセン自身によって以下のようなコメントが添えられています。

第1楽章；マンハッタン到着

「作曲家を乗せたアメリカ行き大きな客船がゆっくりとニューヨーク港に入っていく。そこはまだ霧がかかっているが、突然メトロポリスの輪郭が現れる。」

第2楽章；セントラル・パーク

「日曜日は、市の中心部に横たわる大公園の中をふらつく。楽しい雰囲気にあふれ、子供たちはともに遊び、陽光がすべてのものに降り注ぐ。」

第3楽章；ハーレム

「立ち止まることなく、我々は黒人たちの街ハーレムに行き着く。トランペットがジャズスタイルで悲しみに沈んだレシターティヴを演奏し始め、それは他の楽器にも取り上げられ何度も何度も繰り返される。遠い国々への郷愁をこめて。」

第4楽章；ブロードウェイ

「喜びの大通り。すべてのものが生きる喜びできらきらと輝く。」

第5楽章；ロックフェラー・ビルディング

「前楽章はオーボエとフルートの3連音符の呼び掛けで終わる。作曲家は世界でもっとも大きなビルディングの外観を眼前にする。彼は称賛の気持ちの極まりの中でオープニングの主題を歌のように繰り返し口ずさむ。最初はクラリネットの低音域で、その後、徐々に高まり大きくなっていく。作曲家の旅の印象を新世界への表敬とするために。」

■**打楽器とバンドのための協奏曲／ロバート・ジェイガー(1939―)**

皆さんは、打楽器に対してどのような印象をお持ちでしょうか?。普段はステージの後方に位置し、メロディやハーモニーを奏でることなく、リズムでバンド全体を支える“縁の下の力持ち”的存在ですが、この作品では逆にそのような打楽器パートを前面に押し出した協奏曲です。曲は、ソリストとバンドとの対話という典型的な協奏曲の構成には変わりありませんが、シロフォン、ヴィブラフォンなどの鍵盤楽器はもちろんのこと、バストラム、シンバルなど全ての打楽器を、“打撃音”としてでなく“メロディ”として表現されている点が特色といえます。

■**ア・ウィークエンド・イン・ニューヨーク／フィリップ・スパーク(1951―)**

ニューヨーク市はアメリカ合衆国北東部の大西洋に面し、沿岸には巨大なニューヨーク港を持っています。市はブロンクス、ブルックリン、マンハッタン、クイーンズ、スタテンアイランドという五つの行政区に分けられ、人口は800万人以上の合衆国最大の都市です。また国際連合本部の所在地であるだけで

なく、商業、文化、ファッション、エンターテインメントなど様々な分野において世界中に多大な影響を及ぼしていて、まさに世界の中心といえる都市です。

この作品は、ジョージ・ガーシュウインの『パリのアメリカ人』よろしく、この巨大都市の喧騒や風物の中に立った一人のイギリス人作曲家(実は、フィリップ・スパーク自身)を対置的に描いたもので、作曲者が“ストリート・シーン”と呼ぶ、律動的なテーマを要所々々に聴かせながら、街を行くイギリス人作曲家が遭遇するさまざまな場面や驚きを率直に表現しています。

■**ニュー・シネマ・パラダイス／エンニオ・モリコーネ(1928―)**

《ローマに住んでいる映画監督サルヴァトーレは、故郷のシチリア島の村からアルフレートが死んだという知らせを受け取る。30年間故郷に帰っていない彼は、少年時代の回想を始める。戦争で父を亡くした彼は、映画に魅了され村の映画館をのぞき見しようとして映写技師アルフレートに近づく。やがて二人の間には友情が芽生える…。》

この作品は、中年男性が映画に取りつかれた少年時代と、青年時代の恋愛を回想する物語です。1989年にイタリア国内で公開されたものの興行成績が振るいませんでしたが、のちに国外において好評を博し、数々の国際的な映画賞を受賞しました。

感傷と郷愁、映画への愛情が描かれた作品の内容と相まって、モリコーネによる音楽もよく知られており、日本では様々な企業のCMに使用されています。

■**吹奏楽のためのシンフォニックソング／ロバート・ラッセル・ベネット(1894―1981)**

作曲者のロバート・ラッセル・ベネットは、ブロードウェイ・ミュージカルの編曲者として有名で、『サウンド・オブ・ミュージック』や『マイ・フェア・レディ』など、名だたる大作のほとんどは彼の手によるものです。また吹奏楽の作品も多く、中でも1957年に作曲されたこの作品は、ミュージカル・シーンで歌とダンスのエッセンスを知り尽くした彼ならではのユーモアとウィットに富んでいます。

曲全体は、金管楽器によるラグタイム調の複雑なリズムに乗せて木管楽器が流れるような緩やかな旋律を歌う“セレナーデ”、物静かで力強い祈りの歌“スピリチュアル(黒人霊歌)”、陽気なお祭り騒ぎ“セレブレーション(祝典)”の3曲で構成された組曲で、ベネット自身はこの作品について「シンフォニック・ソングは歌であり、また同時に舞踏組曲もしくは情景の曲でもある。」と述べています。



プロフィール

客演指揮者:吉崎直之

京都市立堀川高等学校音楽科(現京都市立京都堀川音楽高等学校)、京都市立芸術大学音楽学部をトランペット専攻で卒業。トランペットを八木茂夫、北村源三、藏野雅彦、有馬純昭、指揮法を伊吹新一の各氏に師事。大学在学中から、フリーランスのトランペット奏者として活動し、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、宝塚歌劇オーケストラ、広島交響楽団等に客演。京都JEU GIAトランペット講師、大阪プラス・コンソートのコンサート・マスター、BREEZE BRASS BANDでの活動を経て、現在、プラス・フェイヴァリッツ、ウインドカンパニー管楽オーケストラ、JAPANアカデミー・トランペット・アンサンブル、アルカディア室内管弦楽団等のメンバー。ヤマハ株式会社契約インストラクター。全日本学校音楽研究会講師。平成18、20、21年度文化庁派遣講師。奈良県立高円高等学校音楽科講師(Tp、合奏)。京都市教育委員会吹奏楽特別非常勤講師。奈良文化高等学校吹奏楽非常勤講師、天理音楽院講師。多数の吹奏楽団、オーケストラを指揮・指導し、現在A-Winds奈良アマチュアウインドオーケストラの他、王寺ジュニアバンド・ハルモ、生駒台ジュニアプラスバンド、大和高田市立片塩小学校、堺市立向丘小学校、葛城市立白鳳中学校、山添村立山添中学校、香芝市立香芝中学校、奈良市立登美ヶ丘北中学校、奈良県立高円高等学校、平城高等学校、畝傍高等学校、橿原高等学校、奈良高等工業専門学校、京都市立紫野高等学校、白頭学院建国中・高等学校、同志社香里中・高等学校、橿原交響楽団の各団体等を指導。